

小曲

1

真珠は 白く うるほつてゐる
いま 雲が しづかに 空を 行く
いちごは 何か 味がある
あなたの心に 甘えながら
僕は 汗をかいて めて
茶色の にごつた 目で
あなたの くびすちを 流れる 汗を みつめてゐる
きたない肌を しながら
僕は 幸福を 信じはじめる
美しいものに 絶望をしても
二人だけは 愛し合つてすごさう と
ささやきかはした ときに
さつと 風が 二人の間に 吹き込んでくる

2

一年前に同じ室で私達は幸福をささやいた
夏の白い雲が空を通りうつとりした時をすごした
目のふちにくろみが増えて少しやせたあなたは
何を書いてゐるのだらう
ひざまづいて鉛筆でこまごまと書いてゐる
窓の外には緑の葉
二階までのびた無花果には
はかない青い実が大きな葉蔭に数へられる
純粹を
死のやうなしづかな日を
いまはただ二人で願はう